

展望台

ノースロップ・グラマンの 概要——ともに力を合わせ、 未来のイノベーションへ

スタン・クロー



航空産業の黎明期からまだ見ぬ未来の発見に至るまで、ノースロップ・グラマンとそのDNAを受け継いだ企業は、科学や技術、新発見の分野で常に新境地を切り開き続けています。弊社の原点には、全翼機フライング・ウィングの生みの親である先見性あふれる設計者のジャック・ノースロップ、海軍向け航空機の設計・製造の権威であるリロイ・グラマン、システム工学の伝説的な草分けで数々の技術イノベーションにより冷戦を勝利に導く立役者となったサイモン・ラモなど、航空史に残るそうした顔ぶれがそろっています。

創業以来、イノベーター集団である弊社はさまざまな産業賞に輝き、新たなスタンダードを打ち立ててきました。例えば、空母に発着艦可能な史上初の自律飛行型無人機 X-47B を開発したのは、ノースロップ・グラマンでした。弊社の功績は地球上だけにとどまりません。月面に人類を初めて運んだのは、グラマン製の月着陸船でしたし、初めて太陽系から脱出した宇宙船は弊社の前身の一つである TRW 製のパイオニア10号でした。また新星や成長途上の銀河が初めて形成され始めた時点まで遡って観測できると期待されているジェイムズ・ウェブ宇宙望遠鏡は、現在、弊社が製造を担当しています。

このように極めて複雑なシステムの開発・製

造では、技術革新力と首尾一貫した事業体制がなければ、技術や製造に関わる難題を乗り越えることができません。これまでに直面した数々の難題の中でも、とりわけアポロ13号の救出に当たるNASAチームの支援事業ほど困難を極め、重圧にさらされたことはありません。本来、月面着陸を担うはずのグラマン月着陸船は救命ボートの役割を担い、3人の乗組員全員を無事に帰還させることに成功しました^{*}。こうした弊社ならではの強みは連綿と受け継がれており、今日でもノースロップ・グラマンは日本をはじめ、世界中のお客様のニーズに応え、無人システムやC4ISR、攻撃、サイバー、兵站、近代化などの面で他の追随を許さない力を発揮しています。

日本では航空自衛隊が13機のE-2C「ホークアイ」早期警戒機を運用しており、ホークアイ運用国の中では、米国を除き最大規模となっています。また航空自衛隊は、F-4、F-35、E-767 AWACS、C-130などの航空機に搭載するレーダー・電子戦装置、航法システム、敵味方識別システムなど、ノースロップ・グラマン製のミッションやフライト用の各種アビオニクス装置も運用しています。

ノースロップ・グラマンは、F-35A ライトニングII向けの中央胴体部、レーダー、電子光学装置、通信装置などのサブシステムを防衛省に納入しています。海上自衛隊はMCH-101対機雷戦ヘリコプターに搭載するノースロップ・グラマン製の航空レーザー機雷探知システムやAQS-24機雷探知ソナーを運用しています。さらに、陸上自衛隊では、AH-64Dヘリコプターに搭載するノースロップ・グラマン製のロングボウ・レーダーやレーダー警報装置を運用しています。

E-2D アドバンスドホークアイ、RQ-4グローバルホーク、F-35の各種プログラムを通じて、日本の安全保障におけるノースロップ・グラマンの関わりは拡大しています。こうした資産を背景に、日本の意思決定者はこれまでにない高度な状況認識が可能になり、日本の陸海空域の防護に特化した情報・監視・偵察能力も強化されます。また将来の脅威に備えるための、米軍と自衛隊の相互運用性や効果の向上にもつながります。

未来に目を向けると、目の前の課題に対して継続的なイノベーションと解決策を生み出していくためには、極めて優秀な人材が欠かせないとノースロップ・グラマンは考えます。このため、弊社では、グローバルな規模でSTEM(科学・技術・工学・数学)教育に大々的に取り組んでいます。ノースロップ・グラマン財団では、この1年間、NASAのジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡の開発を追いかけたドキュメンタリー映画『Into the Unknown』を世界各地で学生・教師向けに上映しています。同作品は、学生の想像力を刺激すると同時に、STEM分野に関わる職業を意識するきっかけづくりに貢献しています。

弊社が取り組んでいるグローバルなSTEM振興活動は、この映画にとどまらず、奨学金、大学との提携、「スペースキャンプ」(航空宇宙分野の教育プログラム)、学生向けサイバー技術コンテスト(サイバーパトリオット、サイバーセンチュリオン、サイバーアラビアほか)など多岐にわたります。ノースロップ・グラマンならびにノースロップ・グラマン財団は、日本を含め世界各地で多様なSTEM関連の振興活動・団体の支援に数百万ドルの資金を投じています。

ノースロップ・グラマンによる日本でのもう一つの重要な取り組みが、日本の産業界との協業です。日本の取引先各社や米国政府と協力して、ライセンス生産や共同生産、国内での維持整備、研究開発の各種プログラムの可能性を検討しています。この協調的な取り組みは、長期にわたる信頼関係の構築という弊社のゴールにもつながっています。

※このアポロ13号の爆発事故による乗員の救出劇は1995年のアメリカ映画「アポロ13号」に詳しく描かれており、トム・ハンクスがアポロ13号の船長ジム・ラヴェルを主演した。第68回アカデミー賞の編集賞と音楽賞を受賞。

Stan Crow / ノースロップ・グラマン・ジャパン最高経営責任者。米空軍士官学校卒業(宇宙航行工学士)。ワシントン大学で国際関係学修士号を取得。米空軍将校として現役・予備役を含めて29年間にわたり、情報、宇宙システム開発、戦略・計画など幅広い分野を担当。